

## 会 議 録

名 称	平成29年度 目黒区廃棄物減量等推進審議会（第2回）
日 時	平成29年10月30日（月）午前10時～正午
会 場	目黒区総合庁舎本館1階 E会議室
出席委員 （敬称略）	安井、庄司、今井、関、岩崎、原、小林（富）、亀甲、大月、小林（雅）、小林（節）、清水、木村、押切、日下
区側職員	田島環境清掃部長、秋田清掃リサイクル課長、石田環境保全課長、大迫清掃事務所長
傍 聴 者	0名
配布資料	資料1 第9期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿（平成29年10月1日現在） 資料2 平成28年度目黒区のごみ量と資源回収量について 資料3 MGR100プロジェクトについて 資料4 事業所に対する適正排出指導について
会議次第	<p><b>1. 開 会</b> 19人中、出席者は15人であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。</p> <p><b>2. 議題</b> 以下、発言者名・名称は下記のとおり表記する。 環境清掃部長・・・・・・・・・・部長 清掃リサイクル課長・・・・・・・・・・リ課長 清掃事務所長・・・・・・・・・・事務所長 環境保全課長・・・・・・・・・・環課長</p> <p><b>(1) 第9期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿（平成29年10月1日現在）</b> リ課長 （資料1により説明）</p> <p><b>(2) 平成28年度目黒区のごみ量と資源回収量について</b> リ課長 （資料2により説明） 会長 古紙がかなり減っている理由はなにか。 リ課長 紙媒体から電子媒体に移行している傾向が見受けられる。一方で、可燃ごみに古紙が含まれている可能性もあり、引き続き普及啓発に取り組んでいく。 委員 雑がみの回収量についてはどうか。 リ課長 雑がみの回収量についてのデータはとっていない。新聞や雑誌類は減少している。 委員 折込チラシの分類はなにか。 リ課長 雑がみになる。ただし、新聞に入っていたものは、新聞と一緒に出してもらっており、ポストに投函されていたものは、雑がみとして出してもらっている。 委員 そのように分ける理由はなにか。 事務所長 ポストに投函されるチラシなどは、紙質が違うため分けてもらっている。新聞に入っていたチラシは、分けていただく手間を考慮し、一緒に出してもらっている。その後、製紙工場で新聞とチラシの分別を行っている。（追記：一部の製紙工場によっては、一緒に溶解が可能なところもあり。） 委員 私は新聞に入っていたチラシは新聞と一緒に出し、ポストに投函されていたものは雑がみとして出している。 委員 私は新聞に入っていたチラシも分けて、雑がみとして出している。</p>

委員	新聞に入っていたチラシも分けた方がよいのであれば、そう決めていただければと思う。古紙の分け方については、あまり認知されていないところがある。
リ課長	いただいた意見を検討しながら、今後も普及啓発に力を入れていく。
委員	古紙の施設を見学したことがあるが、いろいろな紙を全部一緒に集めていたが、
事務所長	見学されたところは、多種類を一緒に集めている施設だと思われる。紙の種類によって売却(引き取り)単価や成果物が異なるため、古紙の分別は必要である。
会長	古紙については「段ボール」「新聞」「その他(雑誌類)」の最低3つの分別は必要である。
委員	荒川区が作成したクリアファイルは、雑がみとして出せる紙類を掲載しており、よくできている。目黒区でも作成したらよい。
リ課長	普及啓発に効果的なものを検討していきたい。
委員	新聞販売店が独自に行っている古紙回収などと連携はしているか。
事務所長	連携はしていない。
委員	古紙を出す際に、区民が混乱しないようにしてほしい。
委員	紙パックと古布を回収している場所はいくつあるか。
リ課長	紙パックは41カ所、古布は59団体が回収を行っている。
委員	事業系ごみ量はどうなっているか。
リ課長	28年度事業系ごみ量は、2万433トンである。
委員	事業系ごみの組成分析はできるか。
リ課長	事業系ごみについては難しいと思われる。
委員	清掃一部事務組合と連携して組成分析などを実施すれば、ごみを減らすことができると思う。
<b>(3) MGR100プロジェクトについて</b>	
リ課長	(資料3により説明後、MGR100プロジェクトの動画を上映)
会長	親子でカレーを作っている動画は、家庭で実践できるごみ減量の取り組みとして有効的だと思う。
委員	動画に目黒区エコプラザが出ていたので尋ねるが、平町エコプラザの閉鎖の理由はなにか。
環課長	平成23年度からの緊急財政対策による検討の結果、閉鎖した。維持費が高いことや利用率が低いことなどが理由である。代替策として、西部・南部地域については、エコライフめぐろ推進協会による出張講座等を開催している。
委員	区内のスーパーでは、発砲スチロールの他に、透明のプラスチックを回収したり、マイバッグを推奨したりしているところもある。とてもいい取り組みであり、今後はレジ袋の有料化及び回収を検討していただきたいと思う。
委員	MGR100プロジェクトの前期の締め切りを9月15日としたのは、子どもたちに夏休みを利用して取り組んでもらうためとのことだが、教育委員会などと連携を図ったのか。
リ課長	合同校(園)長会で、MGR100プロジェクトについての説明を行い、協力を依頼した。
<b>(4) 事業所に対する適正排出指導について</b>	
事務所長	(資料4により説明)
委員	廃棄物処理業者に委託している区内事業所の数は、把握しているか。
事務所長	現在は把握していないが、適正排出指導の調査終了時には、把握できる見込みである。

会長	区内全事業所の適正排出指導には5年程かかるとのことだが、事業系ごみを減らす抜本的な対策とそのスケジュールは決まっているか。優良事業者を表彰する制度などを検討していただきたい。
事務所長	現在、区内を5地区に分けて順番に回っている。途中で中間報告はできると思う。
委員	目黒区だけでなく全国的に見ても、事業系ごみについての対策は遅れている。23区では事業系ごみを収集しているが、他の地域では収集しなくなっている。現在、目黒区では1日あたりに出るごみ量が、50kg未満の事業所については収集を行っている。今後、どのような仕組みにしたらよいのか、審議会で検討していきたい。
会長	区内に食品業界などの団体はあるか。
部長	目黒区商店街連合会（区商連）の各商店街組織には飲食店が多く加入しており、地域ごとに料飲組合等もある。
会長	食品業界の方に、審議会に出てもらうことを検討してもよいかと思う。
委員	事業者の中には、事業所でごみを出す有料になるので、自宅へ持ち帰ってしまう人もいます。ごみ袋を指定するなどの対策を検討したらよい。
委員	事業系ごみについては、1日あたりに出るごみ量ではなく、ごみの種類によって定めるなど、わかりやすくしてもよいと思う。いずれにしても、区が方針を出していくことが大事だと思う。
会長	事業系ごみは家庭ごみとは違う。検討する際は、資料をそろえて改めて議論をした方がよい。
委員	事業系ごみには一般廃棄物と産業廃棄物があり、処理施設が異なる。目黒清掃工場は、一般廃棄物を処理する施設である。原則、事業者から排出されるプラスチックは全て産業廃棄物だが、例外的に「あわせ産廃」として、一般廃棄物とあわせて出すことを認めている。
委員	どれくらいまで例外として「あわせ産廃」が認められているのか。
委員	定めはない。
委員	実際、事業系有料ごみ処理券が貼ってあるごみは、収集されている。
事務所長	区のルールどおり分別してあるものは、収集している。
会長	事業系ごみの実態について、分かりやすい説明を今後も継続的にお願いしたい。
<b>3. その他</b>	
リ課長	今回は、平成30年2月2日に開催する。
<b>4. 閉会</b>	
以 上	